

独立行政法人  
国際協力機構  
北陸支部長賞

## 教育発展のために

高岡市立戸出中学校 3年 大井 洸樹

「病気の母親に仕送りするためにアメリカの大会社でお金を稼ぐ」

ガーナの7歳の少年は自らの将来についてこう語りました。本でこれを見たとき、彼の7歳とは思えない真剣な考えに感心しました。でも、そんな彼の夢が実現することはあるのでしょうか。彼は幼い頃からカカオ農園で働いています。学費が足りず、学校にも通えていません。アメリカへ行くことはおろか、働くことすらできないかもしれないというのが、彼の現状なのです。

彼のように初等教育を受けられない児童は現在世界に約7,500万人います。初等教育とは、日本でいう小学校の過程です。僕たちは小学校でまず、国語と算数を勉強しました。すなわち、文字の読み書き、計算です。初等教育を受けられない児童は、これらの能力を身につけることなく大人になってしまうのです。そのような人を「非識字者」といい、現在世界に約7億7,600万人もいます。

少年が自分が非識字者であるがために夢を諦めなければならなくなった時、どれほどの悲しみを味わうでしょう。子ども達の夢が教育という壁で阻まれるというのは、なんとも残酷ではないでしょうか。

ある時、インターネットの広告で青年海外協力隊の募集を見かけました。調べてみると、農業関係や医療関係など様々な職種があり、その中の一つに、識字教育がありました。その活動は、発展途上国の非識字者を対象とした教室や、そのための場所の確保や教材の準備といったものでした。また、ユネスコでも世界寺子屋運動という教育支援プロジェクトが行われており、多数の団体が非識字者の教育に貢献していることを知りました。そして少しずつではあるけれど、世界の識字率が上昇してきていることを知りました。しかし、まだ十分な学習を受けられない人は世界中にたくさんいます。だから、僕は将来識字教育だけでなく、発展途上国の教育の発展に力を注ぎたいと思います。

その第一歩として、僕は今、文房具の寄付活動に積極的に参加しています。テレビで、1本の鉛筆を短くなくても大切に使っている子どもの姿を見たことがあります。わずかではあるけれど、僕の寄付した文房具が誰かの力になっているのです。だから僕は、子ども達への思いをこの文房具にたくすのです。

将来、現地での教育を通して子ども達の夢を実現させる手助けをするために、僕はこの環境に感謝して学習に励みます。これこそが、僕の使命なのです。